

hello



子どもの非認知能力向上へ 美唄の取り組み



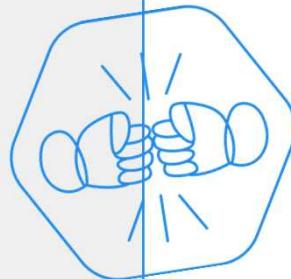
令和7年10月
オープンディスカッション



非認知能力とは？

定義

人間の感情や行動、態度に関わる能力



重要性

非認知能力が注目される背景

非認知能力とは、知識や技能といった認知的能力とは異なり、自己管理能力、コミュニケーション能力、協調性、粘り強さ、好奇心などをいいます。

これらの能力は、テストの点数では測れない、いわゆる社会情動的スキルとも呼ばれています。

非認知能力は、子どもたちの学習面だけではなく、将来の社会生活や職業生活においても重要な役割を果たすと考えられています。

グローバル化や情報化が急速に進む現代において、単なる知識の習得だけでなく、それを活用する力、新たな価値を生み出す力が求められています。また、AIやロボットの発達により、今後は機械化・自動化が難しい分野で、人間ならではの能力が重要になってくると予想されます。

OECD（経済協力開発機構）のEducation 2030プロジェクトでも、非認知能力を育むことが21世紀の教育の重要なテーマの一つとして掲げられています。

非認知能力のさまざまな要素

自己管理能力（セルフコントロール、時間管理、計画性など）

コミュニケーション能力（表現力、傾聴力、共感性など）

協調性（チームワーク、リーダーシップ、柔軟性など）

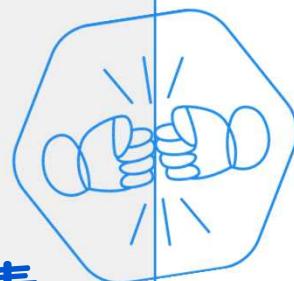
粘り強さ（忍耐力、持続力、挑戦心など）

好奇心（探究心、創造性、学習意欲など）

子どもの発達段階に応じて、徐々に身につけていくことが大切

具体例

非認知能力とは？



教育

非認知能力が 教育に求められる理由

子どもたちのウェルビーイングの向上
非認知能力を身につけることで、子どもたちの自己肯定感や幸福感を高めることができます。

学習意欲や学力の向上

非認知能力は、学習に対する意欲や態度にも好影響を与え、結果として学力の向上にもつながります。

社会で求められる人材の育成

非認知能力は、これからの社会で求められるコミュニケーション力やチームワーク、問題解決力などにも直結しています。

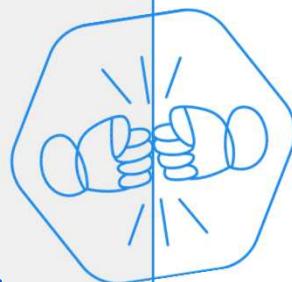
非認知能力とは？

影響

非認知能力が 子どもの成長に与える影響

子どもたちの学習意欲や学業成績、さらには将来の社会的成功に大きな影響を与えます。自制心や忍耐力が高い子どもは、目標に向かって努力を続けることができ、困難に直面しても諦めずに乗り越えていく力を持っています。

また、協調性やコミュニケーション能力に優れた子どもは、他者と良好な関係を築き、チームワークを発揮することができ、こうした能力は、学校生活だけでなく、将来でも役立ちます。



育成のポイント

子どもが主体的に考え、 行動する場面を設けること

グループワークやディスカッションを取り入れ、子ども同士が協力して問題解決に取り組む機会を経て、失敗を恐れずにチャレンジする姿勢や、努力を評価し、適切なフィードバックを与えることで、自己肯定感や粘り強さを高めることができます。



市の取り組み

子どもとまちの 未来会議

子どもたちがまちづくりに活かすアイデアを考え、市議会本会議場で市長などへ自ら提案し、実現させるための取り組み。

グループで！



美唄まちづくり部

定期的に集まり、美唄を盛り上げるアイデアを考え、大人に協力依頼しながら形にしていく取り組み。

入部して！



ビバラボ

子どもたち一人ひとりが持っている「やってみたい」思いや「なんでだろう？」の好奇心を形にしていく取り組み。

1人で！

